

金沢型学校教育モデルの実践について

～めざすべき金沢の子ども像の実現～

地域の
特色ある
活動

石川県金沢市教育委員会

1 はじめに

金沢市は本州のほぼ中心に位置し、市内には山も海もあり、自然にとっても恵まれています。清らかな犀川や浅野川の他、わき水も多く、水が豊かな町です。一方で県庁所在地として交通網や商工業も発展しており、北陸有数の中核市として高い利便性も持ち合わせています。平成 27 年 3 月には北陸新幹線が開業し、これを機にさらなる高みを目指しています。

金沢市教育委員会では、平成 27 年 1 月に学校教育の一層の振興を図るため、「金沢市学校教育振興基本計画」を策定し、この計画に基づき、総合的な施策を実践していくこととしました。これに伴い、その基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進していくことが大切であると考え、「金沢型学校教育モデル」を構築し、本市において高い教育水準の確立を目指しています。

「金沢型学校教育モデル」は、子どもたちが何を学ぶかという内容として「金沢型学習プログラム」、どのように学ぶかという方法として「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」の 3 つの要素で構成されます。

2 金沢型学習プログラム

全小・中学校の基準となる学習内容を明確にすることにより、知・徳・体の調和のとれ

た児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進します。

具体的には、「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢ふるさと学習」「金沢『絆』活動」の 3 つから構成されています。

(1) 金沢ベーシックカリキュラム

知・徳・体の調和のとれた教育課程となるよう、各教科の年間指導計画に、道徳教育、人権教育、健康教育等の年間指導計画例を加えた全小・中学校の基準となる特色ある教育課程です。

各学校においては、これを基準として、児童生徒の実態や地域の特色等を踏まえ、各学校の特色ある学習内容を加え、学校独自の教育課程を編成します。

(2) 金沢ふるさと学習

金沢のもつ伝統や文化、自然、歴史、食などの多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かかわり、広めることを通して、金沢のまちに愛着と誇りをもち、まちづくりの担い手を育むことをめざす学習です。新たな都市像「世界の『交流拠点都市金沢』をめざして」やキャリア教育、持続可能な開発のための教育の視点も取り入れながら実施します。

(3) 金沢「絆」活動

「金沢市学校教育振興基本計画」に掲げるめざすべき金沢の子ども像をわかりやすく、覚えやすい言葉で表現し、子どもたちの考え方や行動の基本的な約束事としてまとめた「金沢子どもかがやき宣言」を平成 26 年に市立中学校の代表が集い、完成させました。その宣言に基づく実践を通して、人と人との絆

を大切にしながら、責任感、思いやり、向上心、行動力、コミュニケーション能力などの心と力を磨く児童会・生徒会活動です。具体的には、「金沢『絆』会議」の開催、「金沢『絆』プロジェクト」の実施、「金沢『絆』の日」の設定の3つの取組により活動を推進します。



小・中学校の児童生徒による河川敷の清掃活動

3 金沢型学習スタイル

全小中学校において基本となる学習スタイルを確立するため、これまでの授業スタイルを「課題の発見と解決に向けた主体的・対話的な深い学習の重視」「分かる喜び・できる喜びのある学習の重視」「好ましい人間関係に基づく学習の重視」の3つの視点で見直し、新たに児童生徒がどのように学ぶかを示した「自分で みんなで 考える 金沢型学習スタイル」として策定しました。

平成28年度より金沢型学習スタイルに基づく教育活動を、市立全小・中学校の教員一人一人が当たり前のこととして徹底して実践し、授業力向上に努めるとともに、児童生徒の資質・能力の育成につなげています。

加えて、教員一人一人が金沢型学習スタイルに基づく指導方法の理解を深めるために、「金沢型学習スタイル映像資料」を作成しました。これは、金沢型学習スタイルの指導過程に合わせ、1単位時間の授業における3つの段階5つの場面ごとの具体的な指導の手立てや指導のポイントをテロップで明確化し映像で示したもので、全小・中学校に配付しています。

4 金沢型小中一貫教育

小中連携をさらに充実・発展させ、9年間を見通した連続性・系統性のある教育活動を展開することにより、児童生徒の「学び」と

「育ち」をつなげることを目的としています。

具体的には、全ての中学校区において行う共通の「基盤となる取組」と、その基盤の上に、各中学校区の実情や児童生徒の実態、地域の特色等を踏まえた独自の「特色ある取組」の大きく2つの取組を推進します。

また、「金沢型小中一貫教育」を学びの土台として位置付け、各学校が小中一貫教育の推進体制を強化することにより、「金沢型学習プログラム」と「金沢型学習スタイル」に基づく教育活動を展開するための効果的な手段となります。



小・中学校の教員が授業参観後、よりよい授業をめざし、お互いに意見交換

5 むすび

新学習指導要領では、学校教育を通じて子どもたちが学ぶべき内容や身に付けるべき資質・能力等がわかりやすく示されています。また、その中で生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性といったこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育てていくことが重要とされています。

「“何を” “どのように” 学ぶかを明確にした金沢型学校教育モデル」の考え方は、これから新しい時代に求められる学校教育の方向性と合致していると言えることから、本市が掲げる「めざすべき金沢の子ども像」の実現のため、家庭や地域と連携を図りながら着実に進めていきたいと考えています。

教育長

野口 弘

